

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【公開番号】特開2015-223451(P2015-223451A)

【公開日】平成27年12月14日(2015.12.14)

【年通号数】公開・登録公報2015-078

【出願番号】特願2014-111848(P2014-111848)

【国際特許分類】

A 6 2 C 31/03 (2006.01)

【F I】

A 6 2 C 31/03

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月27日(2016.4.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

また、図8(B)に示すように、第1連結部材50の第1ねじ軸56と連結ロッド部材48の第1ねじ穴60の螺合関係において、第1ねじ軸56は先端側に所定の最小ねじ込み量L 2を設定し、続いて所定のストローク量L 1を設定しており、第1ねじ軸56のねじ部の第1ねじ穴60に対するねじ込み長さは、最小ねじ込み量L 2にストローク量L 1を加え、更に、先端側のマージン量ΔLを加えた(L 1 + L 2 + ΔL)としている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

一例として、最小ねじ込み量L 2 = 12ミリメートル、ストローク量L 1 = 15ミリメートル、マージン量ΔL = 4ミリメートルであり、第1ねじ軸56のねじ部の第1ねじ穴60に対するねじ込み長さは31ミリメートルとなり、第1ねじ軸56のねじ部の長さはこれに第1ロックナット64のナット穴64の長さを加えた長さとなる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

この最小ねじ込み量L 2、ストローク量L 1、マージン量ΔLの関係は、連結ロッド部材48の第2ねじ穴62に螺合する第2連結部材52の第2ねじ軸58についても同様である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【0053】

図10は最小ねじ込み量  $L_2$  となる螺合状態に第1連結部材50と第2連結部材52を連結ロッド部材48の回転操作でストロークした場合を示しており、図5の第2支点軸40と第3支点軸42の中心間の間隔を決める軸穴54、55の中心間距離を所定の最大間隔  $L_{max}$  としている。この最大間隔  $L_{max}$  は、図8(B)の最小間隔  $L_{min}$  に、第1連結部材50の第1ねじ軸56及び第2連結部材52の第2ねじ軸58のストローク量  $L_1$  の2倍のストローク量を加えた間隔、即ち、

$$L_{max} = L_{min} + 2 \times L_1$$

となる。